

この取扱説明書は下記の製品用です。

- ・難燃性ハーネス型安全帯
- ・ハーネス用難燃性ランヤード

説明書No.S 6 5 0

「安全帯の規格」適合 ハーネス型安全帯

ツヨロン 難燃性 ハーネス型安全帯

いつでも活用できるよう大切に保管してください

このたびは、《 ツヨロン 難燃性 ハーネス型安全帯 》及び《 ツヨロン ハーネス用難燃性ランヤード 》をお買い上げいただきありがとうございます。本品は、鉄鋼所・建設工事・造船所など、熱源を発する環境での高所作業の墜落事故防止に用いるフルハーネスタイプの安全帯及びランヤードで、労働安全衛生法第 42 条の規定に基づく「安全帯の規格」に合わせて製造したものです。

本品を正しく安全にお使いいただくため、**ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。**

なお、「4. 必ずお守りください（使用上の注意事項）」は事故を未然に防ぐためにとても大切なので、よくご理解の上ご使用ください。また、ご使用に際して、「5. 点検と廃棄の基準」にしたがって、点検を行ってください。取扱説明書を紛失された場合は弊社に請求してください。

※本取扱説明書に使用しております「織ロープ」は「安全帯の規格」ならびに「安全帯構造指針」、「安全帯使用指針」に記載されている「ストラップ」に該当します。藤井電工(株)の登録商標です。

また、より安全なご使用のため、労働安全衛生総合研究所技術指針「安全帯使用指針」(NIIS-TR-No. 37(2004))の併読をお奨め致します。

弊社の安全帯ならびに墜落防止器具の使用につきましては、下記のような特殊な環境下においては、設計上の性能・機能が十分確保されない状況が発生することが考えられます。特殊な環境下でお使いになる場合は、「お客様相談窓口」までお問い合わせください。

特殊な環境下：①金属類に錆びの発生しやすい海上や海岸地域での使用、②摺動部の作動に悪影響をおよぼす可能性のある土砂等の付着しやすい現場での使用、③酸やアルカリの付着が考えられる現場での使用など。

も く じ

1. 用 途	P. 2
2. 構造および各部のなまえ	P. 2
3. 使い方	P. 3
4. 必ずお守りください （使用上の注意事項）	P. 6
5. 点検と廃棄の基準	P. 12
6. 保管・手入れのしかた	P. 14
7. 交換のめやす（耐用期間）	P. 14
8. 性 能	P. 15
9. オプション	P. 16
10. お客様相談窓口	P. 16



形状は一例を示します



FUJII DENKO

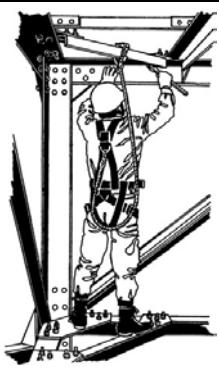
1. 用 途

ハーネス型安全帯は、1本つり*専用です。
その使用例および用途は次のとおりです。

※1本つり

図のようにランヤード先端のフックを構造物に掛けて、あるいはランヤードを回し掛けてして構造物から人体までがランヤード1本でつながっている状態をいいます。

なお、1本つり状態ではランヤードに体重を預ける作業には使用できません。

使用例	用途
	鉄鋼所・造船所・建設工事などの熱源を発する高所作業現場で、ランヤードに体重を預けないで作業ができる場合に使用します。

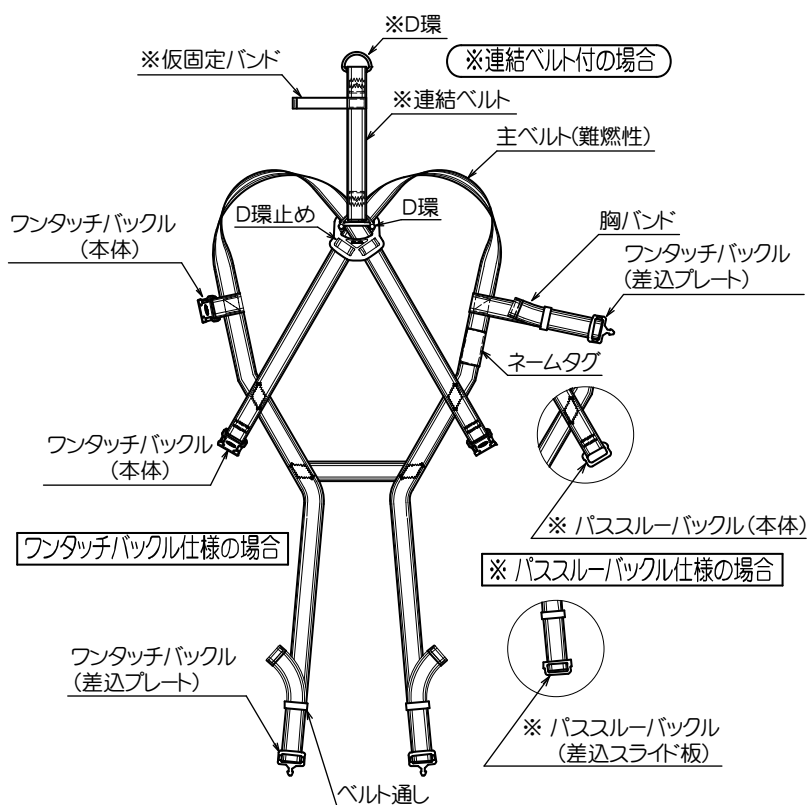


本品は高所作業における墜落災害を防止するために、ハーネスまたはハーネス用ランヤードを組み合わせて使用する個人用保護具ですので、他の用途には使用しないでください。

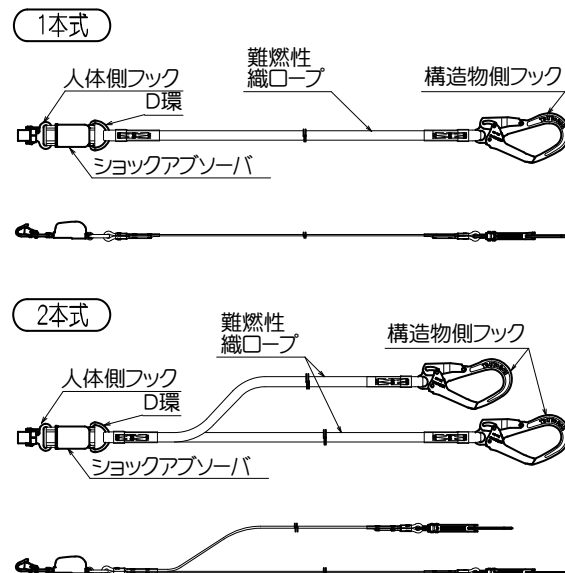
2. 構造および各部のなまえ

難燃性ハーネス型安全帯の全体図（形状は一例を示します）

ハーネス



難燃性織ロープ式ランヤード



ハーネスの注文番号	連結ベルト	ハーネスのバックル（腿・胸バンド）
R-510HR-D-OT2	なし	フタタッチバックル
R-510HR-N-OT2	付き	
R-510HR-D-PT	なし	パススルーバックル
R-510HR-N-PT	付き	

ランヤードの注文番号	ランヤード	人体側フック	構造物側フック
1本式	THR-93-33	FS-33-45	FS-93
2本式	THR-2-93-33		

使用するランヤードについて



難燃性ハーネス型安全帯には、専用のショックアブソーバ付ランヤードを使用してください。
ショックアブソーバの付いていないランヤードと難燃性ハーネス型安全帯を組み合わせた場合、墜落阻止時の衝撃荷重が「安全帯の規格」に定められた 8.0kN を超える場合があります。
弊社製ベルブロックとの組み合わせにおいてはショックアブソーバがなくても使用できます。

体重（装備重量）*の制限について



本製品は、体重（装備重量）が 100kg 以下でお使いください。
体重が 100kg を超えると墜落阻止時、人体に大きな荷重が加わり重大事故につながるおそれがあります。
体重が 100kg を超える作業者がご使用になる場合は、より衝撃吸収性の高いショックアブソーバ付のランヤードをご使用ください。
弊社製ベルブロックと組み合わせて使用する場合は、ベルブロックの仕様（120kg 以下）に合わせてください。
詳しくは「お客様相談窓口」までお問い合わせください。
※体重（装備重量）：体重と装備品全ての合計重量。

3. 使い方

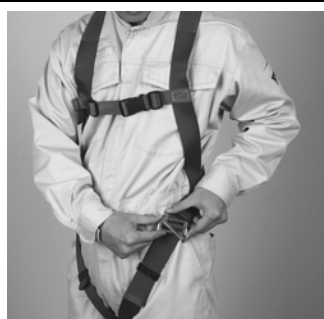
ハーネス型安全帯の装着方法



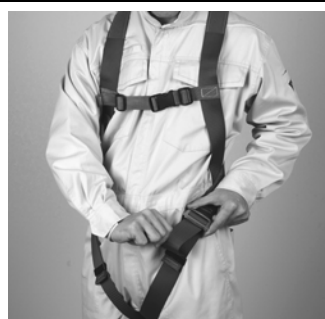
(1) 肩ベルト部に腕を通します。



(2) 胸バンドをバックルで連結します。



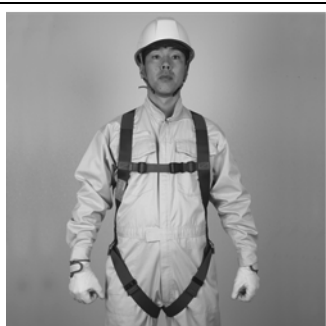
(3) 腿ベルト（2本）をバックルで連結します。（注1）



(4) 腿ベルトの長さを調節します。



(5) 胸バンドの長さを調節します。



(6) 装着完了

ランヤードのフック等を背部のD環に取り付けてから、ハーネスを装着してください。

（注1）ワンタッチバックルの操作方法については、P.5 ワンタッチバックルの使い方の項参照。
パススルーバックルの操作方法については、P.5 パススルーバックルの使い方の項参照。

ランヤード等のフックをハーネス型安全帯に掛ける方法

連結ベルト付きの場合



①フックを連結ベルトのD環に掛けます。



②仮固定バンド(面ファスナー)を外し、連結ベルトを肩ベルトから外します。



③使用後は面ファスナーで連結ベルトを肩ベルトに留めておきます。

連結ベルト無しの場合

フック等を背部のD環に取付けてからハーネスを装着してください。



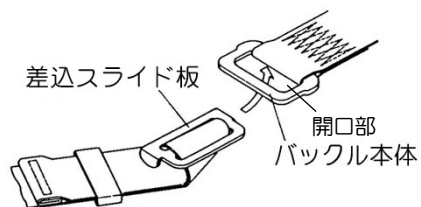
フック等を背面のD環に取付けます。



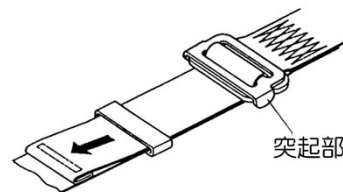
フックがD環に確実に掛かっていることを目視で確認してください。

パススルーバックルの場合

(1) 差込スライド板を横にした状態でバックル本体の開口部に通します。



(2) 差込スライド板の突起部がバックル本体に納まるように重ねた後、ベルトの先端部を引張って、ベルトがしっかりと締まる長さに調節してください。



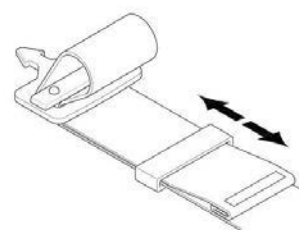
(注) 接続方法に注意してください。(p. 8 参照)

ワンタッチバックルの場合

(1) ベルト長さの調節

ベルトがしっかりと締まる長さに調節してください。

ワンタッチバックルは一般のバックルと異なり、ロック箇所とベルトの長さを調節する箇所が別々になっていますので、あらかじめ正しい位置にしっかりと締まる長さに調節の上ご使用ください。



(2) 連結するとき



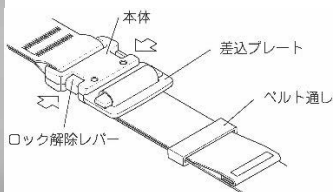
① 片方の手でバックル本体を保持して、差込プレートを本体の奥に当たるまで差し込みます。

(ワンタッチバックルを連結した状態)



② 両方のロック解除レバーがロックの位置 (p. 8 参照) にあることを確認し、さらにベルトを左右に引張って、バックル本体に差込プレートがロックされていることを確認してください。

(2) 外すとき (図参照)

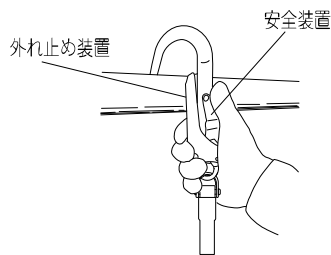


① 両側のロック解除レバーを同時に押します。



② 差込プレートが外れます。

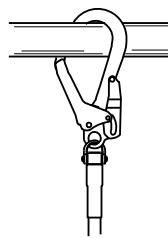
フックの操作方法



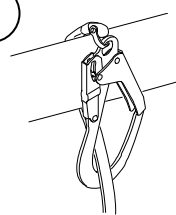
まず安全装置、その後外れ止め装置を連続して握ると開口します。

構造物側フックの掛け方

直接掛け



回し掛け



構造物側フックはD環（ランヤード取付位置）より高い位置の堅固な構造物などに直接掛けをするか、あるいはロープを利用して回し掛けをしてください。

4. 必ずお守りください（使用上の注意事項）

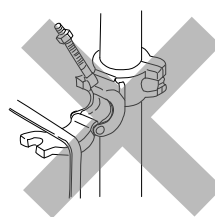
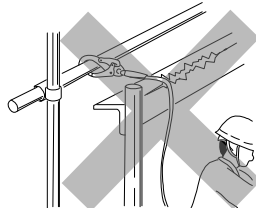
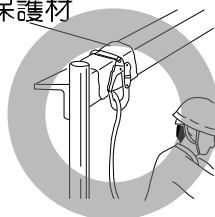
⚠ 危険

誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

ランヤードは鋭い角に触れないようにしてください

ランヤードが鋭い角に触れる危険性のある所では使用しないでください。

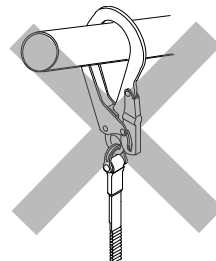
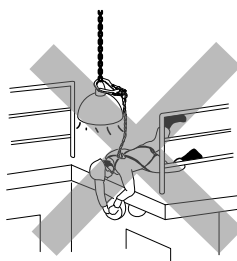
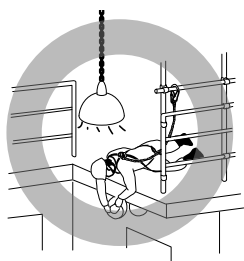
保護材



- 墜落阻止時に鋭い角で織ロープが切断することがあり危険です。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。

ランヤードが外れたり、抜けたりしない堅固な構造物に取り付けてください

ランヤードは、構造物から抜けたり、破損したりする危険性がなく、墜落阻止時の衝撃荷重に十分耐えるものを選んで取り付けてください。



- 電灯線等弱い構造物に取り付けると、墜落阻止時の衝撃荷重で構造物が破損し、墜落する危険性があります。
- 構造物の端が開放状態の構造物では、墜落阻止時にフックが移動し抜け落ちる危険性があります。

2 本のランヤードのどちらか一方が構造物と連結しているようにしてください

移動したい所に副ランヤードを取り付けてから、これまで掛けていた主ランヤードを外します。これを交互に繰り返して移動します。フックを掛け替える時は、必ず主・副どちらかのランヤードが構造物に掛かっているようにしてください。

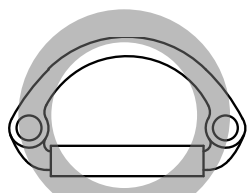
- 副ランヤードを掛ける前に主ランヤードを外すと無ランヤード状態になり、墜落する危険性があります。



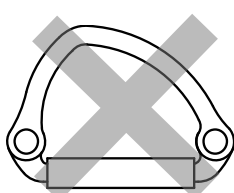
警告

誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

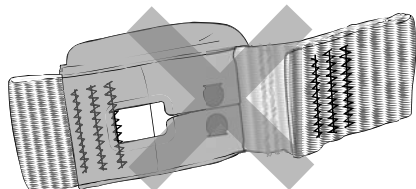
一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください



正常なD環の状態



一度墜落阻止したD環の状態

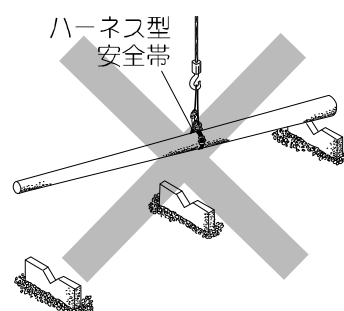


ショックアブソーバが少しでも作動しているもの

- 上図のような変形などがあれば、大きな外力が加わった可能性があります。ハーネスおよびランヤード全体を廃棄してください。
- 外見上の変形がなくても、一度大きな荷重が加わったものは、再び落下すると衝撃荷重が大きくなり、安全限界を超えて人体に損傷を及ぼすおそれがあります。

墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください

部材などを吊り上げるスリングベルトの代用など、用途がえをしないでください。

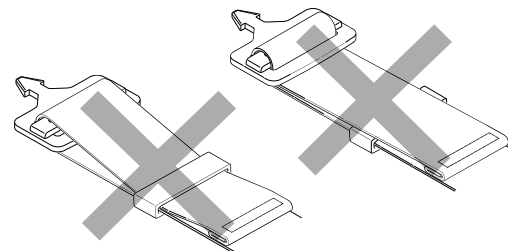
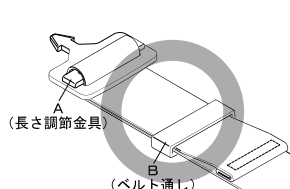


雨の日は感電に注意してください

- 安全帯が雨に濡れて水分を含むと電気が流れやすくなり、電線に触れると感電するおそれがあります。

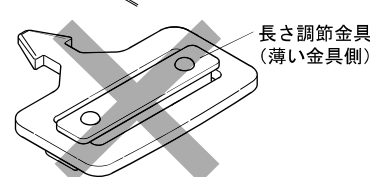
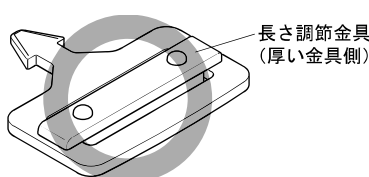
ベルトを差込プレートの長さ調節金具とベルト通しに正しく通してください

ベルトを差込プレートのA（長さ調節金具）の部分とB（ベルト通し）に通し、ベルトの先端部が体の外側になるように正しく通してください。



- ベルトの通し方を間違えると、墜落阻止時にベルトが差込プレートから滑り抜けて、重大事故になります。

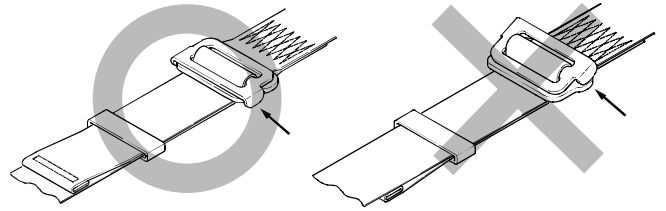
また、差込プレートへは長さ調節金具の厚い金具側を上側にした状態で、右図のようにベルトを通してください。



パススルーバックルは正しく連結してください

バックルの接続方法は、必ず右図（左側）のようにしてください。

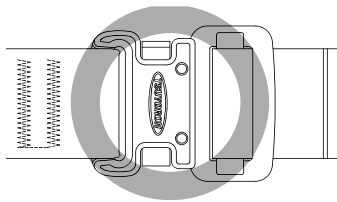
- 連結の仕方を間違えると、墜落阻止時にバックルが外れて事故のもとになります。



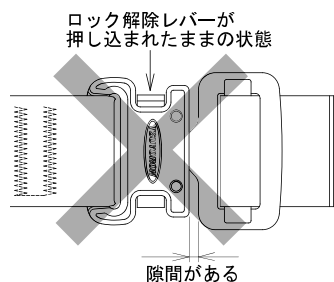
差込プレートが確実にロックされていることを確認してください

差込プレートは両方のロック解除レバーの位置が下図（左側）に示す状態になるまで（本体の奥に当たるまで差し込み「カチッ」と音がするまで）差し込んでください。連結後、ベルトを左右に引張って、バックルがロックされていることを確認してください。

腿ベルト・胸ベルト用



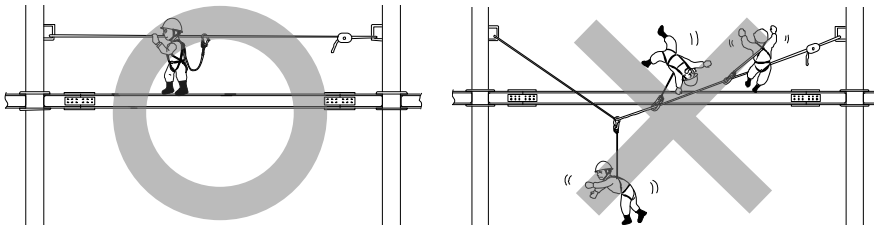
ロックした状態



ロックしていない状態

- 差込プレートを確実にロックしていないと、墜落阻止時に差込プレートが本体から抜けて重大事故になります。また、保護服の上に装着される場合は、保護服を挟み込まないように注意してください。

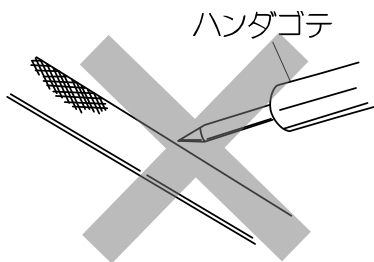
垂直・水平親綱の1スパンを利用する作業者は1名としてください



- 友引き状態になり、他の作業者も同時に墜落するおそれがあります。

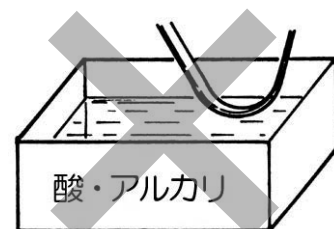
高温部に近づけないでください

本品は、難燃性繊維を使用していますが、できる限りベルト・織ロープ・ショックアブソーバは火気または高温部に触れないようにしてください。



ハンダゴテ

酸（バッテリー液など）・アルカリを付着させないでください。



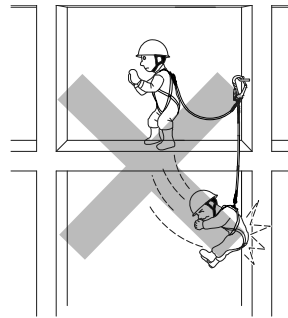
- ベルト・織ロープ等は合成繊維製のため酸・アルカリで溶解してベルト・織ロープ等の強度が低下し、墜落阻止時に必要強度が得られず墜落阻止できないおそれがあります。

凍結時は各部の作動を確認しながらお使いください

- 安全帯が水に濡れて凍結すると、ワンタッチバックルの内部のロック装置、ショックアブソーバ、フックの外れ止め装置や安全装置が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

〔ショックアブソーバが水に濡れて凍結すると、万一の墜落時に作動しないおそれがあります。〕

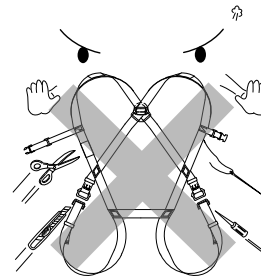
ランヤードは振り子状態にならない位置に取り付けてください



- 墜落阻止時に障害物に衝突して、けがをするおそれがあります。

分解・改造しないでください

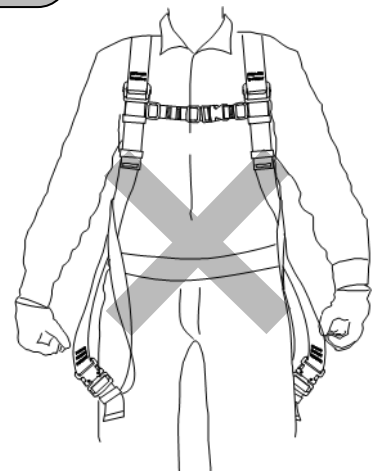
- ご自分で分解・改造することは、必要強度が得られなくなることがありますので絶対におやめください。
- ショックアブソーバを外したり、上からテープを巻きつけることはしないでください。



腿ベルト、胸バンドは正しく装着してください

左右の腿ベルトのバックルおよび胸バンドのバックルは正しく連結してお使いください。また、装着時にベルトがねじれないようにしてください。

- 腿ベルトおよび胸バンドを正しく装着していないと墜落阻止できないおそれがあります。また、墜落阻止時に姿勢が崩れ、身体に損傷を及ぼすおそれがあります。



ランヤードが首の前を通る掛け方や、腋・股に挟み込む掛け方をしないでください

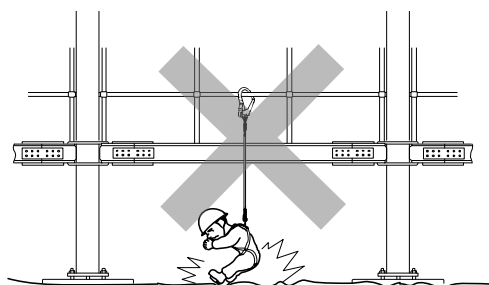
ランヤードが首の前にある状態や、腋・股に挟んだままで作業しないでください。

- 墜落阻止時に、ランヤードが首に掛かって事故のもとになります。また、手足を挟み込んで人体に損傷を及ぼすおそれがあります。



ランヤードは墜落阻止時に床面または下方の障害物に衝突しない位置に取り付けてください

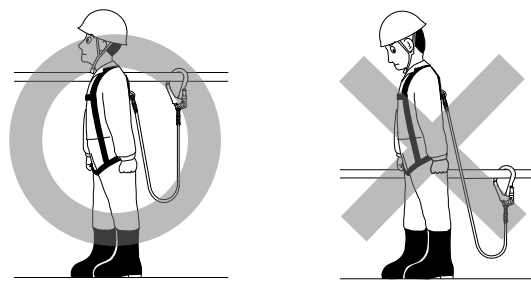
フックは、ランヤード長さの2.2倍（1.7 mのランヤードでは3.7 m）+ショックアブソーバの最大伸び（0.65 m）以上の高さにある構造物に取り付けてください。（安全帯構造指針より）



- フックの取付位置が低いと床面や下方の障害物に衝突し、けがをするおそれがあります。

構造物側フックはD環（ランヤード取付位置）より高い位置に取り付けてください

ランヤードのフックの取付位置は高い方が落下距離が短くなり衝撃荷重が小さくなりますので、できるだけ高い位置に取り付けてください。



- D環（ランヤード取付位置）より低い位置に取り付けると、墜落阻止時の落下距離が長くなり、衝撃荷重が大きくなって人体に損傷を及ぼすおそれがあります。

構造物側フックは正しく掛けてください

構造物側フックは、墜落阻止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないようにご使用ください。（フックの掛け方は一例を示します）

特にアルミ製フックは鉄製フックに比べ、伸びが少ないため、曲げやコジが加わらないようにしてください。

	直接 掛け	回し 掛け	穴掛け（ボルト穴など）
正しい 掛け方			
誤った 掛け方			

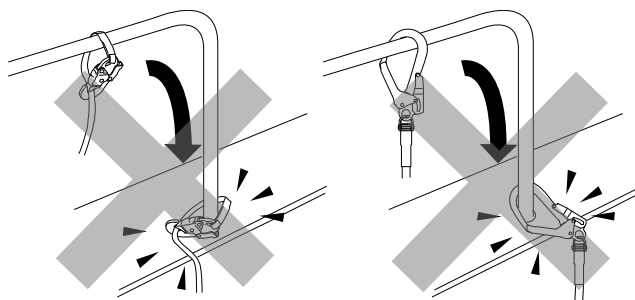


- ・ 誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじられたり部材で押されたりして、フックが取付部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。
- ・ フックが正しく掛かっているか（外れ止め装置の閉じ・安全装置が構造物との接触で押されていないか等）目視で確認してください。

フックは滑り落ちるような箇所に取り付けしないでください

フックは、斜めの構造物や逆し字型の構造物など、フックが取付位置から滑る箇所には、取り付けしないでください。

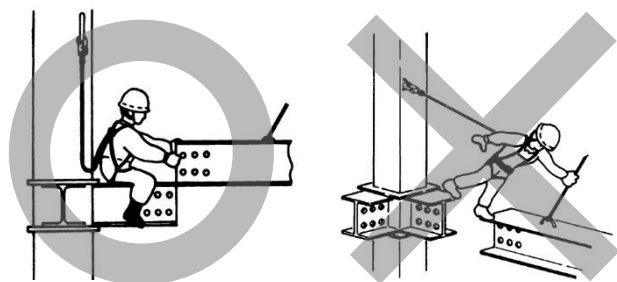
- 墜落阻止時にフックが滑り、破損するおそれがあります。
- 衝撃荷重が大きくなり、墜落を阻止できないおそれがあります。



⚠ 注意

安全にお使いいただくためにお守りください。

安全帯に体重を預けないでください

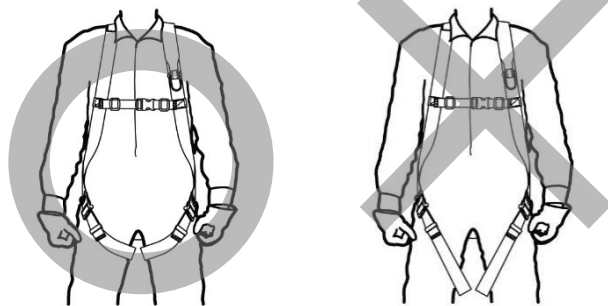


- 1本つり専用安全帯は、体重を預けないで使用する設計です。体重を預けると安全帯が損傷して強度不足になったり、バランスをくずして落下する場合があります。

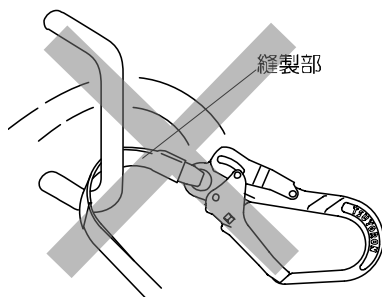
〔常時体重を預ける作業には、柱上安全帯（U字つり専用型または1本つり・U字つり兼用型をご使用ください。〕

ベルト長さを身体に合わせて調節してください

- ベルトを緩く締めていると、墜落阻止時に大きな衝撃荷重が加わり、身体が損傷したり、ハーネスから身体が抜けて重大な事故が起こる場合があります。また、作業時に突起物などに緩んだベルトが引っかかり転倒する場合があります。



縫製部に屈曲としごき加わる使用はしないでください

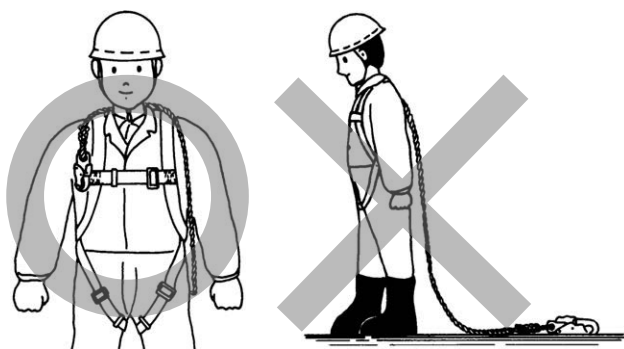


- 縫製部や縫製部際に過度の屈曲としごきが繰り返されると、縫製部の縫糸に切れや緩みが生じ、強度の低下につながります。

難燃性ハーネス型安全帯には専用のランヤードを使用してください

- 異なるメーカーや型式のものを組み合わせて使用すると必要強度や機能が得られない場合があります。（「安全帯使用指針」で指導されています。）

丁寧に扱ってください



本品を引きずりますと、フック・バックル等に砂などの異物が付着したり、ベルト等が摩耗したりし、強度が低下します。使用しない時、ランヤードは首にかけるか、フックハンガーに掛けてください。

- フック・バックルには、内部に摺動する部品があります。放り投げたり、重量物の下積みしたり、砂や土・水など異物が付着したり混入したりしないようにしてください。部品の破損や変形、異物の混入などによりスムーズな動きができなくなり、ロック機構に支障をきたす場合があります。
- 織ロープに結び目を作らないでください。強度が低下します。

体重*が 100kg 以下でお使いください

体重が 100kg を超えると墜落阻止時に大きな衝撃荷重が加わり、重大事故が起こる場合があります。体重が 100kg を超える場合は、「お客様相談窓口」までお問い合わせください。

* 体重（装備重量）：体重と装備品全ての合計重量

工具類は腰袋へ入れてください

工具類は必ず腰袋、シノはシノ差しへ入れてください。

- ベルトの内側にシノなどを差しておくと、墜落阻止時に身体に損傷を及ぼす場合があります。

屋外に放置しないでください

- ベルト・織ロープは合成繊維のため紫外線によって強度が低下します。

5. 点検と廃棄の基準

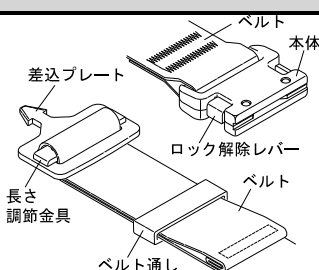


安全帯および安全帯関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗等により性能が低下します。従って点検において 1 項目でも廃棄基準に該当するものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取り替えてください。

始業点検：使用する人が作業前に毎回行ってください。

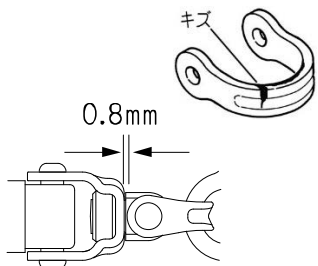
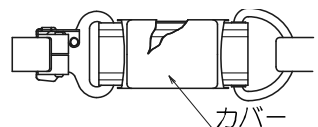
点検後地上で本品を装着し、異常のないことを確認してください。

定期点検：使用する人もしくは管理者により 1 カ月ごとに行ってください。

異常時点検：作業中安全帯に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

点検箇所・項目		点検方法と廃棄基準	始業点検	定期点検
ハネス部	ワンタッチバックル (OT)	 本体・差込プレート（差込スライド板）が変形しているもの。	○	○
		変形によりベルトが締まらないもの。	○	○
		変形やばねの折損などにより、ロック解除レバーが元に戻らず、差込プレートがロックできないもの。(OT)	○	○
		リベットの頭部が 1/2 以上摩滅しているもの。(OT) 	○	○
		リベットのかしめ部にガタのあるもの。(OT)	○	○
		深さ 1mm 以上の傷や摩滅があるもの。	○	○
	パススルーバックル (PT)	 全体に赤錆または著しい腐食が発生しているもの。	○	○

点検箇所・項目		点 検 方 法 と 廃 棄 基 準		始業点検	定期点検
ハーネス部	ベルト ハーネスの主ベルト 連結ベルト		耳または幅の中に 2mm以上の損傷・焼損・擦り切れがあるもの。	○	○
			全体的に摩耗・毛羽立ち・著しい汚れがあるもの。(素手で確認)	○	○
			薬品が付着したもの。薬品により変色・溶解箇所があるもの。	○	○
			塗料が著しく付着して、硬化しているもの。	○	○
			バックル把持部に著しい毛羽立ちのあるもの。	○	○
			ベルト端部の縫製糸が切れ、解けているもの。	○	○
	縫製部		縫製部に緩みがあるものや、縫い糸が摩耗したり 1 個所以上切断しているもの。	○	○
	ベルト通し		腿ベルトから脱落しているもの。	○	○
			亀裂のあるもの。	○	○
			1mm以上摩耗しているもの。	○	○
環類		目視でわかる程度の大きな変形があるもの。	○	○	
		深さ 1mm以上の傷や摩滅があるもの。	○	○	
		全体に赤錆または著しい腐食が発生しているもの。	○	○	
		リベットの頭部が 1/2 以上摩滅しているもの。 	○	○	
D環取付部		ベルトの耳に 2mm以上の傷・擦り切れがあるもの。	○	○	
ランヤード	フック		変形により外れ止め装置が完全に開閉しないもの。	○	○
			完全に閉じないもの  完全に開かないもの 	○	○
			変形により安全装置が作動しにくいもの。	○	○
			かぎ部の内部に傷のあるもの。	○	○
			深さ 1mm以上の傷があるもの。	○	○
			リベットの頭部が 1/2 以上摩滅しているもの。 	○	○
			全体に赤錆または著しい腐食が発生しているもの。	○	○
			ばねが折損または脱落して外れ止め装置が完全に開閉しないもの。	○	○
	織ロープ		耳または幅の中で 1mm以上の損傷・焼損・擦り切れのあるもの。	○	○
			芯糸（ベージュ）が露出しているもの。	○	○
			薬品が付着したもの。薬品により変色・溶解箇所があるもの。	○	○
			塗料が著しく付着して、硬化しているもの。	○	○
			全体的に摩耗・毛羽立ち・著しい汚れがあるもの。(素手で確認)	○	○
全体的に波打っているもの。			○	○	
			織ロープがねじれたり、変形しているもの。	○	○
		摩耗防止ベルトが破れているもの。	○	○	
		縫製部保護チューブが破れ、縫糸が 1 個所以上切断しているもの。	○	○	
		使用開始年月から 2 年が経過しているもの。(損傷がなくても紫外線によって強度が低下します。)	○	○	

点検箇所・項目		点 検 方 法 と 廃 棄 基 準		始業点検	定期点検
ラ ン	フック 連結金具		目視でわかる程度の大きな変形があるもの。	○	○
			深さ 1mm以上の傷や摩滅があるもの。	○	○
			全体に赤錆または著しい腐食が発生しているもの。	○	○
			織ロープ連結部とフック連結部の間に 0.8mm以上の隙間があるもの。	○	○
			ナットの遊びの大きいもの。	○	○
ヤ ー ド	ショック アブソーバ		薬品が付着したもの。 薬品により変色・溶解箇所があるもの。 塗料が著しく付着して、硬化しているもの。	○	○
			カバーが破れて中のベルトが露出しているもの。 (テープなどを巻き付けしないでください。)	○	○
			両端の環部のベルトが著しく摩耗しているものや傷のあるもの。	○	○
			大きな衝撃荷重を受け作動したもの。	○	○
			縫製部に緩みがあるものや縫糸が摩耗したり、1個所以上切断しているもの。	○	○

廃棄について：金属部品と合成繊維部品（またはプラスチック）は分別して廃棄処理してください。

6. 保管・手入れのしかた

(1) 次のような場所で保管してください。

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| ①直射日光に当たらない所。 | ⑤塵埃の少ない所。 |
| ②風通しがよく、湿気の少ない所。 | ⑥ねずみなど小動物の入らない所。 |
| ③火気・放熱体などが近くにない所。 | ⑦その他、安全帯の機能・強度に悪影響を及ぼさない所。 |
| ④腐食性物質と同室でない所。 | |

(2) 高温（50℃以上）となる場所に長時間保管しないでください。

(3) 物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。

(4) ベルト・織ロープに泥・埃・油が付着していたり、汚れている場合は、中性洗剤を付けたあと、水を含ませた布等で軽く叩いて汚れを布に移してください。

(5) フック・バックルなどの金具に付着した泥・砂・埃などは、乾いた布か水を含ませた布で拭き取ってください。

(6) 可動部に時々注油してください。

7. 交換のめやす（耐用期間）

使い方によって異なりますが、使用開始年月からハーネス部で3年、ランヤードで2年をめやすとして交換してください。

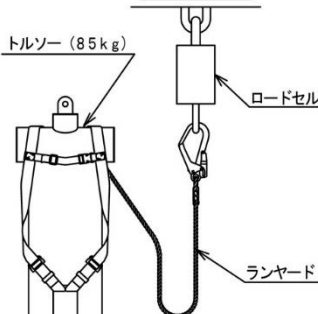
ただし、耐用期間内であっても「5. 点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に該当するものは使用しないで、新品と取り替えてください。

- 使用を開始した年月を、バックル取付部に縫い付けてあるネームタグに必ず記入してください。
- ランヤードなどを取り替えた時はその年月をネームタグに必ず記入してください。

8. 性 能

巻末に示します弊社総合試験所で確認したデータです。

8.1 落下時の衝撃吸収性

試 験 方 法	規 格 値	社内試験結果
 <p>トルソー (85 kg)</p> <p>ロードセル</p> <p>ランヤード</p>	<p>衝撃荷重： 8.0 kN 以下</p> <p>「安全帯の規格」値</p> <p>ショックアブソーバの伸び： 6.5 cm 以下</p>	<p>4.0 kN</p> <p>(ランヤードに THR-93-33 を使用した場合)</p> <p>ショックアブソーバの伸び 5.5 cm</p>

8.2 各部の強度

この数値は新品時の引張強度（静荷重）です。特にベルト・縫糸などの繊維部分の強さは、使用による摩耗・紫外線劣化・その他の要因によって経年とともに低下します。

部 分	「安全帯の規格」値	社内試験結果
ベルト（難燃性）	15.0 kN 以上	30.7 kN
D 環	11.5 kN 以上	30.0 kN
ワンタッチバックル	6.0 kN 以上	9.8 kN
パススルーバックル	6.0 kN 以上	9.6 kN
ハーネスの引張	引張治具から脱落しないこと 11.5 kN 以上	脱落しなかった 35.1 kN
フック（構造物側） （FS-93）	11.5 kN 以上	15.2 kN
人体側フック （FS-33-45）	11.5 kN 以上	22.7 kN
難燃性織ロープ （縫製部含む）	15.0 kN 以上	19.6 kN

8.3 難燃性

この数値は社内で行った強力保持率（残存強度）試験の結果です。

部 分	試 験 条 件	強力保持率
ベルト（難燃性）	300℃ 2分間 （社内試験）	97.2%
難燃性織ロープ （縫製部含む）	250℃ 2分間 （社内試験）	92.3%

9. オプション

ハーネス用フックハンガー
(R-23-45)



10. お客様相談窓口

この取扱説明書の内容につきおわかりになりにくいときや、製品の取扱いについてご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店、または下記のご相談窓口にお問い合わせください。

藤井電工株式会社 <https://www.fujii-denko.co.jp/>

本 社 営 業 部	〒679-0295 兵庫県加東市上滝野 1573 番地 2	TEL. (0795) 48-3360	FAX. (0795) 48-3409
(東北地区) 仙台営業所	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪 2 丁目 9 番 5 号 五輪ビル	TEL. (022) 256-7001	FAX. (022) 295-7423
(関東地区) 東京支社	〒103-0004 東京都中央区東日本橋 1 丁目 7 番 2 号 長坂ビル	TEL. (03) 5821-2241	FAX. (03) 5821-2170
(中部地区) 名古屋営業所	〒460-0012 名古屋市中区千代田 3 丁目 16 番 5 号 ニュー千代田ビル	TEL. (052) 872-2421	FAX. (052) 872-2468
(関西地区) 大阪営業所	〒530-0041 大阪市北区天神橋 1 丁目 8 番 13 号 林ボウルビル	TEL. (06) 6882-3355	FAX. (06) 6242-2170
(九州地区) 福岡営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2 丁目 8 番 27 号 博多駅東パレスビル	TEL. (092) 413-6110	FAX. (092) 413-6120

北海道・北陸・中国・四国・沖縄地区については、本社営業部のご相談窓口にお問い合わせください。

最新設備を備えた藤井電工総合試験所



屋外試験鉄塔群




屋内試験鉄塔



社(やしろ)工場



 藤井電工株式会社